

巢鴨御薬園跡 すがもおやくえんあと

霊園の西にある東京都中央卸売市場豊島市場は、かつて「巢鴨御薬園」でした。寛政10年(1798)ごろに薬用植物の栽培地となり、綿羊を飼い、ラシャ織りを試作して、「綿羊屋敷」とも呼ばれました。



旧中山道

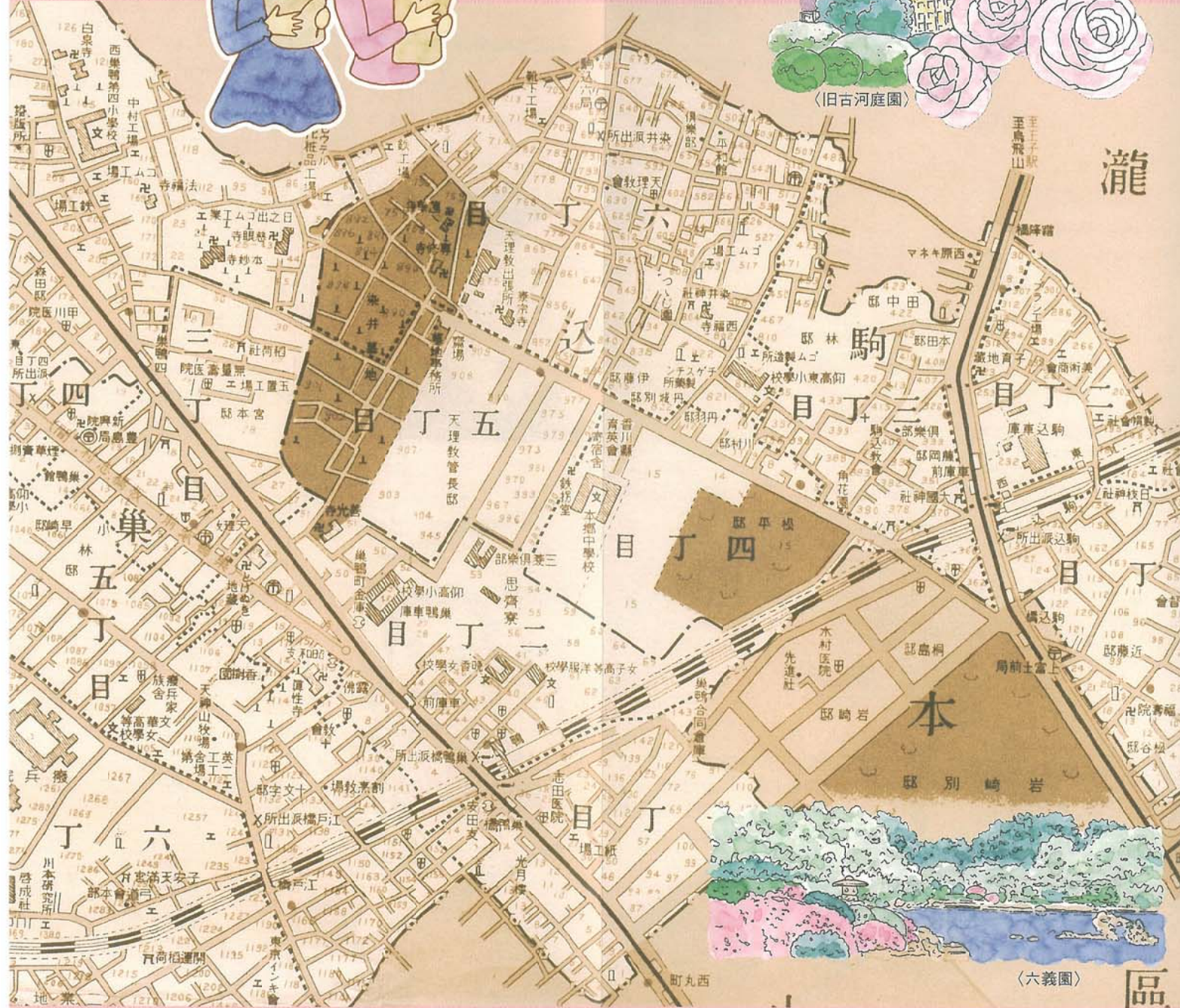
本郷追分で岩槻街道と分かれ、巢鴨駅前を通る江戸五街道の一つです。江戸六地蔵の眞性寺、とげぬき地蔵の高岩寺門前を通ります。はじめは「中仙道」と書きましたが、正徳6年(1716)から「中山道」に統一されました。



駒込・染井の地

江戸時代の切絵図で見ると「比辺染井村、植木屋多シ」と書き込まれています。名花「ソメイヨシノ」を生み出した土地であり、ツツジや菊づくりを広めた園芸家たちの集まる場所でした。駒込駅前を南北に通る本郷通りは、日光街道に続き、将軍の日光参詣の行列の通る街道でした。現在、通り沿いには六義園(りくぎえん)、バラと洋風建築が美しい旧古河庭園(きゅうふるかわていえん)、お花見で有名な飛鳥山(あすかやま)がつづく緑豊かな地域です。

染井霊園 MAP



「番地入新大東京市三十五区分図之内 豊島区詳細図」(部分 1933年発行)
 「豊島区立郷土資料館編集『豊島区地域地図 第1集』(1987年発行)所収のものを使用」

発行: 豊島区文化観光課
 東京都豊島区東池袋1-18-1
 TEL: 03-3981-1316 FAX: 03-3981-3069
 E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp
 執筆: 伊藤榮洪(豊島区図書館専門研究員、元区史編纂委員)
 イラスト: 矢口由美子(デザイン室あとりえ)
 2010年1月発行
 豊島区観光案内ホームページ
http://www.city.toshima.lg.jp/bunka_kankou/



左の地図は昭和7年10月1日豊島区発足直後のもの。右の現在の地図と見くらべてください。

染井霊園

播州林田藩(兵庫県)建部(たけべ)家の抱屋敷跡地で広さは約6万8千㎡です。僧侶の山田文應(やまだぶんおう)の努力で共同埋葬地として開かれ、明治7年(1874)9月1日、東京府が引き継いで開設しました。幕末から明治にかけて活躍した大名や活動家、学者らが多く眠るところです。現在の地番は、駒込五丁目5番。駒込駅、巢鴨駅いずれも近いです。



豊島区観光案内



旧丹羽家の蔵

東京都立染井霊園MAP

～霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします。～

「あの人」との対話を——。

このマップは、染井霊園と、隣接する寺院に眠る人々の連環を巡って「点」が「線」となるように墓石を紹介しています。ご紹介している文化人に関連する人物の墓石は数字で表しました。墓石をたどると、つながりあう人たちに交わされる会話まで聞こえてくる気がします。桜に彩られる霊園で、心に思う泉下の「あの人」との対話を楽しんでみませんか。

清らかな意志の人
高村光太郎
たかむら こうたろう (1883～1956)
高村智恵子
たかむら ちえこ (1886～1938)
高村光雲
たかむら こううん (1852～1934)



1種口6号1側
光太郎は妻・智恵子の死後、詩集『智恵子抄』で国民的人気を博す。戦後、戦争責任を自ら問い、岩手県の山奥にこもる。父・光雲は、明治の木彫の第一人者。岡倉天心に招かれて東京美術学校教授となる。上野公園《西郷隆盛像》の作者。

長池 ながいけ
かつて、巢鴨御薬園に沿って一段低地となっており、谷戸川(藍染川)が流れ出て、霜降橋をくぐり、台東区谷中を流れ、不忍池にそそいでいた。

ほんみょうじ
本妙寺
二十一世秀哉(しゅうさい・1874～1940)までの囲碁本因坊代々の墓も。

ご存知、桜吹雪の金さん
遠山金四郎景元
とよやま きんしろうかげもと (1793～1855)
江戸時代の旗本。江戸町奉行を勤めた。小説・ドラマの『遠山の金さん』などでその名を知られる。



「生」に苦悩した理知派
芥川龍之介
あくたがわ りゅうのすけ (1892～1927)
東京帝国大学(現東京大学)在学中、『新思潮』に発表した『鼻』が夏目漱石に激賞され文壇に登場する。谷崎とは「小説の面白さ」について論争した。



美意識の深淵を抱く
谷崎潤一郎
たにざき じゅんいちろう (1886～1965)
東京帝国大学(現東京大学)在学中、『新思潮』に発表した『刺青(しせい)』が永井荷風に激賞され文壇に登場する。官能的・耽美的な作風で知られる。



重商主義経済を推進
田沼意次 たぬま おきつぐ (1719～1788)
第十代将軍徳川家治に寵愛され、家禄六百石から、五万七千石の相良(さがら)藩大名になり、「田沼時代」といわれる全盛期を成した。



しょうりんじ
勝林寺
れんげじ
蓮華寺

気骨ある明治新聞人
陸羯南 ぐが かつなん (1857～1907)
1種イ8号10側
1889年、新聞『日本』を創刊。民族文化の再発見、再生を論じた。正岡子規を社員として短歌、俳句の革新運動に尽力。この俳句革新運動が雑誌『ホトトギス』を生んだ。短歌革新運動では、⑤萩野由之(はぎのよしゆき)もここに。



せんしゅういん
専修院
園芸の地の駒込・染井を代表する江戸時代の植木屋、伊藤伊兵衛(いとういへい)家の居宅跡。(四代目政武の墓は駒込六丁目の西福寺にある。)



日本美術の先覚者
岡倉天心 おかくら てんしん (1863～1913) 1種イ4号14側
東京美術学校(現東京藝術大学)設立の起動者となり、29歳で第二代校長。辞職後、日本美術院創設、横山大観らを育てる。後にボストン美術館の中国・日本美術部長。東京美術学校初代校長の⑥浜尾新(はまおあらた)、天心と演劇改良運動を共にした元・早稲田大学総長の①高田早苗(たかださなえ)もここに。



言文一致の先導者
二葉亭四迷 ふたばてい しめい (1864～1909) 1種イ5号37側
本名、長谷川辰之助。筆名は、文学に志すことを嫌った父から「くたばってしめえ」と怒鳴られたことに由来するという。小説『浮雲(うきぐも)』で写実文学、言文一致の文体を先導した。同じく言文一致の小説家・③山田美妙(やまだびみょう)もここに。



情熱と理想の教育家
巖本善治 いわもと よしはる (1863～1942)
若松賤子 わかまつ しずこ (1864～1896) 1種イ4号13側
巖本は、明治女学校の第二代校長。相馬黒光、羽仁もと子、野上弥生子らが学んだ。②坪井正五郎(つぼいしょうごろう)は同校講師。「小公女」を本邦初訳した若松賤子は、巖本の妻。孫のバイオリニスト巖本真理(いわもとまり)も葬られている。

